

谷川俊太郎のマザー・グース翻訳の比較

鈴木直子

1 まえがき ー私の研究スタンスー

マザー・グースの研究の面白い点は、様々な切り口が可能だという点である。マザーグース研究会の会員には、英米文学の分野の研究者が多いが、私は図書館司書である。図書館司書の仕事には、「文献目録や索引の作製」および「文献解題」がある。私の研究は、この延長にあると考えている。

ここでは、目録と言っても、ただのリストではなく、ある目的の元に分類され、解題されたものを指す。例えば、先の『マザーグース研究』No.6 (2004.3) に書いた「マザー・グース研究初心者のためのブックガイド」のようなものである。

今回の発表は、相関索引の一種であると言える。谷川俊太郎の訳した各種テキストを年代順に比較するが、そこから、谷川俊太郎の詩作との関連を見いだそうとするものではない。それは、谷川俊太郎の詩の研究者におまかせしたい。

谷川俊太郎のマザー・グース訳は、広く知られて収録数も多い、講談社文庫版が日本語訳の定訳のように扱われているが、それ以外の訳もわずかながらある。最後にそれらの存在を紹介したい。

末尾に、各テキスト出典ページの対照表を付す。草思社のテキストには、原詩の出典が掲げられているので、参考までにそれも記載しておく。

2 比較するテキスト

(1) 『スカーリーおじさんのマザー・グース』日本語対訳テキスト

…1970 (昭和45) 年に中央公論社から発行された。50篇収録。

(2) 『ユリイカ』1973年10月号

…1973 (昭和48) 年に青土社から発行された。12篇収録。

(3) 『マザー・グースのうた』1～5巻

…1975～6 (昭和50～1) 年に草思社から発行された。177篇収録。

(4) 『マザー・グース』1～4巻

…1981 (昭和56) 年に講談社から発行された。336篇収録。

上記4種のテキストのうち、日本語における標準訳として、よく引用されるのは、(3) の草思社訳と (4) の講談社訳だろう。ここではまず、先行の (1) と (2) を (3) と比べ、次に (3) と (4) を比べてどのような変更がなされたかを述べていく。

また、(2) と (4) はどちらもイラストを和田誠が描いている。和田は講談社版のイラストを全て新たに描いているが、訳の変更とイラストの描き替えが連動しているようで面白い。文で説明できる範囲で紹介したい。

3 『スカーリーおじさんのマザー・グース』

中央公論社発行の『スカーリーおじさんのマザー・グース』日本語対訳テキスト (以下、『スカーリー』と略す) 50篇のうち、草思社 177篇の訳と異同がないものが22篇、アラビア数字と漢数字の違いのみのものが6篇ある (10じ→十じ、1じかん→一じかん、3にん→三にん)。つまり、半分以上がそのまま採録されている。残りの22篇のうち、3篇は、草思社に採録されていない。つまり19篇に何らかの改訳がある。

以下の引用では、「/」は改行を、「...」は省略を表わし、() 内は草思社の訳を示す。

(1) 韻や口調を整えるなど軽微な変更

- a. めえめえめんようさん... / にようぼのやつ (おくがたさま) にひとふくろ / みちのはずれ (こみちのおく) の

最初の一袋が「だんなさま」なので、「にようぼのやつ」より「おくがたさま」の方が釣合が取れる。原語はどちらも“dame”。

- b. ほわほわ ころころ (まるまるふとった) むすこのジョン

原詩は、“Diddle, diddle, dumpling”。より意識になった。

- c. エルシー・マーリイ きどりやさん (いしみぶん)

原詩は、“grown so fine”。『スカーリー』のイラストは、エルシーをブタに描き、子どもたちに食事を作らない寝坊のおかあさんにみたてている。イラストは一見「子だくさんの靴のおうちのおばあさん」のようだ。

- d. みどりづくめのヘクター・プロテクター / おうさまにも (おうさまにさえ)

「おうさまにも」が「にさえ」になっただけ。原詩は、“No more did the King”。

- e. えっさかほいさ / ...すたこらさ (おさらばさ)

スプーンとかけおちするのが「おさら」なので、韻を踏む感じに変更。

- f. なきむしくん / ラッパ (らっぱ) をふけよ! / ...めうしははたけ (にでてったよ) / (おやどこいった) / ひつじのばんする / なきむしぼうや (?) / (ほらあそこ)

ふけよの後の「!」がなくなって、なきむしぼうやの後に「?」が付いた。草思社版で新たに追加された「にでてったよ」「ほらあそこ」の部分は意味を補う形。「おやどこいった」の原詩は“*But where is the boy*”の部分だが、『スカーリー』では訳されていない。

- g. じめじめじとじと とあるあさ / かわづくめ (かわのふく) / ぼうしをあごまでかぶってる (ぼうしをかたてにこんにちは) / こんにちわ やあこんにちわ (やあこんにちは こんにちは)

3行目と4行目は、原詩は同じ“*Clothed all in leather.*”。スカーリーでは3行目を「かわのふく」、4行目を「かわづくめ」と言い換えたが、草思社版では原詩に合わせた。帽子の所は、“*With*

cap under his chin”なので、スカーリーの方が原詩に近い。

h. ばらのはなわを つくろうよ / ...はつくしよん (!)

「！」が付いただけ。

i. 6 (六) ペンスのうたをうたおう / ...おうさまは (おうさま) / ...おきさきは (おきさき) / ...はちみつとパン (はちみつパン) をもぐもぐ

口調を整える変更。

j. うかれこなやが... / ぼくはみんなに しらんかお (みんながぼくに しらんかおなら) / みんなもぼくに しらんかお (ぼくもみんなに しらんかお)

最後2行の言い回し変更。

k. 3 (三) びきのこねこ ... / なんだって! てぶくろをなくしたって / (てぶくろなくしたんだって) / ...をみつけたって (てぶくろみつけたんだって) / ...をよごしたって (てぶくろよごしたんだって) / ...をあらったって? (てぶくろあらったんだって) / ...においがするよ (!)

おかあさん猫のセリフの語尾の言い回し変更。

l. ひとりもんはこまりもん / よめさんころりん (おちる) なにもかまころがった (おちめです) さかのした (おじゃんです)

「ころりん」を「おちる」に変えたので、「おちめ」「おじゃん」と頭韻を踏む感じに変更。

(2) 意味をより持たせるための変更

a. セント・アイブスへ... / いったいなんにん (ぜんぶでどれだけ) あててごらん

唄の最後の謎かけ部分の変更。猫も袋も数えさせようというひっかけの唄なのに、「なんにん」だと人間だけ数えそうなため、変更したと思われる。

b. とこやさん とこやさん あたっておくれ (ぶたのひげそりな) / かみのけ (けが) なんぼんで... / かぎたばこ ひとかぎいかが (とこやさんに かぎたばこひとつまみやりな)

1行目は、「ひげ」に変えたので、2行目も「かみのけ」から「け」に変更。原語は“hairs”。豚なので、髪の毛よりはひげの方がリアリティがあるか。「かぎたばこ」の行は、原詩が“Give the barber a pinch of snuff”なので、より正確に。また、語尾を「そりな」と「やりな」で脚韻を踏むように変更。

c. このこぶたさん かいものに / ごちそう (ビフテキ) たべて

原詩は、“roast beef”。より原語に近づけた。(豚が牛を食べるのは変だが)

(3) 原詩が異なるための変更

a. ウェールズうまれのタフィー / ... / にくをかついで (にくのかたまり) ... / ...ねてるあいだに (しらぬがほとけ) / のこったほねを とりあげて (うわぎとズボンをひにかけて) / そいつであたまを ごつんとやった (こんがりやいて やったのさ)

第3連の訳の違いは、原詩の違い。草思社版では、原詩がオーピーのDictionaryから採られている。ちなみに『スカーリー』の原詩は、第3連の前半は同じで後半が“I went to Taffy's house, /

Taffy was in bed, / I took a morrow bone / And beat him on the head.”。

(4) イラストに合わせた訳の変更

- a. ジャック・スプラット おにく(あぶら) がきらい / ミセス・スプラット やさいが (そのおくさんは あかみが) ... / ...すっかり (なかよく) なめて ... / ふたりのあいだのおさらはきれい (ふたりのおさらはびかびかきれい)

『スカーリー』の訳は、イラストによる。原詩でジャックが嫌いなのは“fat” (「脂身」)、奥さんの苦手は“lean” (「赤身」) だが、『スカーリー』のイラストは、野菜を食べている痩せた夫ネコと、太いソーセージを口に運ぶ、夫の4倍くらい太い奥さんネコの夫婦の食事風景を描いている。谷川俊太郎は「さし絵にあわせて」訳語を原語と変えた例がある、と「はじめに」で断っている。草思社版では、原語通りに戻している。

- b. マザー・グースのおばあさん (おっかさん) / ゆくえさだめぬ たびのそら (ぶらぶらでかけるそのときは) / とてもりっぱな つれあいの (がちょうにのってそらをとぶ) / せなかにちょこんと またがって (とびきりじょうとうのおすがちょう)

『スカーリー』の「マザー・グースのおばあさん」は、文字通りガチョウに描かれている。三角帽子にマント、呪文書らしき本までかかえている。そして雌ガチョウがまたがっているのはシルクハットに蝶ネクタイと上着の雄ガチョウだから、雄と雌で「つれあい」というわけ。ちなみに、原詩はまったく同じ。

- c. ひとつ ふたつ / ... ななつ やっつ / ならべて しまう (ならべて やろう) / ここのつ とう / おはなをありがとう (めんどり とうとう)

「おはなをありがとう」の訳は、『スカーリー』のイラストが“Big fat hen” にウサギの女の子が花を一輪さしだしているため。「とう」と脚韻を踏むため「ありがとう」。

4 『ユリイカ』1973年10月号

(1) 『スカーリー』にもあった唄

12篇のうち、『スカーリー』にも出ていた唄は6篇。うち4篇は、『スカーリー』と全く異同なし(「ジョージ・ポージ」 「フェルせんせい」 「じめじめじとじと とあるあさ」 「6ペンスのうたをうたおう」)。

a. ウェールズうまれのタフィー

『スカーリー』と異なるこの唄は、草思社版と同じく原詩がオーピーの*Dictionary*から採られているが、訳は草思社とも異なる。全部で3連なのだが、『ユリイカ』の訳は、各連の前半と後半の並び順が原詩通りでない。誤植と思われる。また、第3連の後半部分「うわぎとズボンを / にくのかわりにこんがりやいた」は、草思社版では「うわぎとズボンをひにかけて / こんがりやいてやったのさ」と語調が整えられている。

b. ロンドンばし

また、もう1篇の「ロンドンばし」は『ユリイカ』では12連の形で、第2連までしかない『スカーリー』とは異同がないが、同じく12連の草思社版とは第3連が異なる。「ねんどと きでは

とけちまう」が「ながれるよ」に変更された。原詩は“Wood and clay will wash away”。

(2) 『スカーリー』にない新訳

『スカーリー』にない残り6篇のうち、草思社版に収録されたものは5篇。うち2篇は、全く異同なし（「ゆくゆくあるいて」「そうできるんならそうしたい」）。あとの3篇を見ていく。

a. もみのきには タールがあるよ

この唄では、全ての行の文末が変更されている。「タールがあるよ（タールがあるわ）」、「かしのきには なにもない（タールがないの）」、「うなぎがいてね（いるわ）」、「なんにもいない（うなぎはいないの）」、「つたをもぐもぐ（つたをたべます）」、「むぎをもぐもぐ（むぎをたべます）」。

口調を整えるための変更と思われるが、変更前の訳の方が生き生きしている感じ。講談社版の平野敬一の解説によると、元々、原詩を早口で読むとラテン語のように聞こえるという言葉遊びの唄なので、英語の意味だけ訳すところに無理があるとも言える。

b. ハンサムなのは げつようびのこども

「ハンサムなのは げつようびのこども」は、草思社版では冒頭が「うつくしいのは」と変更されていて、ずいぶん印象が違う。原詩は“fair of face”。「ハンサム」は、日本語だと男の子の形容の印象があるからか、より一般的な形容詞に変更。

c. ひとつじゃなんにもない

この唄は、いつつまでの数え歌だが、「よつつ」と「いつつ」の訳が変更された。原詩は“Four's a penny; / Five's a little hundred.”。「よつつは かねもち / ひとつとなれば ひやくみたい」が「よつつは こづかい / ひとつとなれば おかねもち」とより洗練された。

草思社版には収録されず、講談社版に収録された1篇は「おりこうハリーパリーくん」で、違いは講談社版で「ハリー・パリー」と表記変更されただけである。

5 草思社『マザー・グースのうた』1～5巻

草思社全5巻177篇のうち、講談社版336篇(1981)の訳と異同があるのは、20篇である。内6篇は、アラビア数字と漢数字の違いのみのもの。4篇は、「ヴァイオリン」を「バイオリン」、「ペニー」を「ペニイ」など字遣いの変更。あと2篇は、「アンナ・マリア」が「アンナ・マライア」に、「きゅうこんしたよ」が「きゅうこんした」に変わった程度の微細なもの。

ある程度の変更が加えられたもの8篇をしてみる。以下の草思社版の引用では、「/」は改行を、「...」は省略を表わし、（ ）内は講談社の訳を示す。

(1) (まとのまんなか おうしのめだま) ... / オレンジとレモン

大幅な追加。「まとのまんなか おうしのめだま」で始まる2連分が「オレンジとレモン」の前に加わった。草思社版の出典は、オーピーの*Dictionary* (#392)。講談社版の原詩は、同じオーピーでも*Book*の方から採られている。

(2) かみさまはみつばちつくった / ...かねつくる (もうける) のはこなや

原詩は、“the miller makes the money”。神様が蜜蜂を「つくつ」て、蜜蜂が蜂蜜を「つくる」のにそろえてあったが、より意味を持たせた訳に変更。

(3) わたしのちいさな このみのなるき / (それというのも ほかでもない)

第2連が追加された。草思社版の出典は、オーピーの*Dictionary* (#381)。その注記を見ると、第2連はハリウェルの1853年版の童謡集から追加されたとある。

(4) ジャックとジル / ジャックはころんで かんむりこわし (あたまをわった)

原詩は、“Jack fell down and broke his crown”。“crown”には、「頭、脳天」という意味もある。イラストも訳に合わせ、草思社版の堀内誠一は「冠」を描き、講談社版の和田誠は、ジャックに何もかぶらせていない。

(5) ロンドンばし... / れんがといし (れんがとすな)

原詩は、“bricks and mortar”。講談社版の平野敬一解説では、「mortarは、訳詩では口調の関係で『すな』と翻訳してある。」

(6) つむじまがりのメアリふじん (メアリさん)

原詩は、“Mistress Mary”。「メアリふじん」だと少し年配の婦人の感じだが、「メアリさん」だと、若くていい感じ。ミスもミセスも“Mistress”の短縮形。

(7) ばあさんや ばあさんや ようもうかりに (くさをかりに)

原詩は、“shall we go a-shearing?”。“shearing”は、現代英語では普通「羊の刈り込み」の意味だが、講談社版の解説では、「go a-shearingはイングランド北部やスコットランドでは『草刈り(あるいは麦刈り)に行く』意」とある。谷川俊太郎は、マザー・グースを訳すにあたって、そもその初めから平野敬一に訳を見てもらった(*)ということだが、草思社の段階では、誤訳が見落とされた例だろう。初出が『スコットランド歌謡集』(1776頃)ということなので、スコットランド方言との解釈でよいと思われる。「ばあさん」がする仕事としても「羊の刈り込み」よりも「草刈り」の方が自然である。

(8) のんきな (とんまな) サイモン

原詩は、“Simple Simon”。この“simple”が「のんき」というより「無邪気な、おめでたい」の意味なのをよりはっきりさせた訳に変更。講談社版の平野敬一解説では、「イギリス人がこよなく愛好する愚か者の一典型」。

6 『スカーリー』(1970) から講談社(1981) まで訳の変更がないものとイラスト

(1) まったく変更がないもの

詩句に変更がない、ということは、たぶん名訳になるのだろう。面白いのは、この全く訳詩が変わらない2篇では、和田誠のイラストまで『ユリイカ』のものと講談社文庫のがそっくり、なのだ。

a. ジョージ・ポージイ プリンンパイ

(『スカーリー』p.30、『ユリイカ』p.80、草思社2集p.39、講談社文庫1巻p.96)

ジョージ・ポージイ プリンンパイ

おんなのこには キスしてポイ
 おとこのこたちが できたら
 ジョージイ・ポージイ にげてった

「ジョージイ・ポージイ」は、女の子には「いじめっこ」、男の子に対しては「いくじなし」という印象があるが、『ユリイカ』の和田誠イラストでは、帽子を頭にちょこんとのせ、片手に花を一輪持った男の子が、お下げの女の子のほっぺたにキスしている。女の子は笑顔で、男の子と手までつないでいる。一輪の花は、ちゃっかりと女心とらえ、この後「ポイ」するのかもしれないが、二人は幸せそう。講談社文庫の和田誠イラストで違うのは、女の子の襟元のボタンがなくなったことと二人の足元の影の描き方くらいで、あとはもう写したかのように同じである。

b. フェルせんせい ぼくはあなたがきらいです

(『スカーリー』p.27、『ユリイカ』p.79、草思社1集p.16、講談社文庫2巻p.109)

フェルせんせい ぼくはあなたがきらいです
 どういうわけか きらいです
 でもたしかです まったくたしか
 フェルせんせい ぼくはあなたがきらいです

「フェルせんせい」では、和田誠のイラストは、丸眼鏡にワレサひげのフェル先生が、顔以外は輪郭だけで左側に大きく描かれ、いがぐり頭にズボンつりの半ズボン姿の「ぼく」が、右側に小さく描かれている。違うのは二人の大きさの差。『ユリイカ』では、フェル先生は「ぼく」の五、六倍も大きくのしかかるように描かれているが、講談社文庫では、フェル先生はせいぜい「ぼく」の倍くらいで、迫力がだいぶ薄らいだ。

(2) 少しだけ変更があるもの

以下の『ユリイカ』の訳の引用では、「/」は改行を、「…」は省略を表わし、()内は講談社の訳を示す。

a. じめじめじとじと とあるあさ

(『スカーリー』p.18、『ユリイカ』p.85、草思社1集p.22、講談社文庫3巻p.59)

変更は、全8行中、後半5～8行目にある。5行目の変更は、「かわずくめ(かわのふく)」。この変更で、4行目と5行目が同一の訳となり、原詩通りのリフレインになった。7～8行目の変更は、「こんにちわ(やあこんにちは) やあこんにちわ(こんにちは) / もひとつついでに こんにちわ(こんにちは)」と、「やあ」の位置と、「わ」を「は」に変えた字遣いの変更である。

イラストに影響を与えたのは、6行目の変更である。「…ぼうしをあごまで(ぼうしをかたてに) かぶってる(こんにちは)」の変更に伴い、イラストも変えられている。『ユリイカ』では、鼻眼鏡に口ひげの紳士が襟をたてたダブルのロングコートを着て、右手にステッキ、左手は軽く上に上げ、挨拶している。もちろん顎の下でとめるレインハットをかぶっている。体全体は右側

に少し傾いている。上空には雨雲から滴る雨粒。講談社文庫では、レインハットはなくなり、山高帽のような帽子を左手で胸元にあて、挨拶の形。その他イラストで異なる点は、ページのレイアウトのため上空のスペースがないので雲は描かれず、雨粒のみ。紳士の胴も若干短くなり、ダブルのコートはセミロングくらいになり、二列のボタンが四つから三つに減っている。

原詩は“With cap under his chin”なので、『ユリイカ』の方が忠実な訳なのだが、なぜ変更したのかは不明。イラストがない場合、「ぼうしをあごまでかぶってる」が日本語としてわかりにくいと考えたのかもしれない。

b. 六ペンスの うたをうたおう

(『スカーリー』p.49、『ユリイカ』p.86、草思社4集p.10、講談社文庫2巻p.18)

訳の異同は、『スカーリー』と『ユリイカ』が同一、草思社と講談社文庫が同一である。冒頭の「6ペンス」から「六ペンス」への変更は字遣いのみ。第3連に口調を整える細かい変更がある。「おうさまは(おうさま) おくらで / おかねかんじょう / おきさきは(おきさき) おへやで / はちみつと(はちみつパンを) パンをもぐもぐ(もぐもぐ)。格助詞の「は」が省かれ、「はちみつとパン」が「はちみつパン」に変更された。後者の原語は“bread and honey”で、“bread and butter”(「バターつきパン」)のような成句ではないが、口調の関係で熟語的に訳したのだから。

『ユリイカ』の和田誠のイラストは、お金を勘定している王様が硬貨を右手に、袋を左手に立っている。王様の左上には、黒ツグミが1羽、下向きに舞い降りてくる構図。講談社文庫では、ツグミの下に「ほしものほしてる」女中が追加されているが、王様は首の曲げ方から、髪のカールの数など殆ど同じである。

7 上記以外の訳

私が確認できたのは、以下の4冊である。草思社発行の『マザー・グースうたのほん』(1977)(以下、『うたのほん』と略)、『マザー・グースの料理絵本』(フランシス・シェリダン・グラール著、主婦の友社、1978)(以下、『料理絵本』と略)、サンリオ発行のCDの歌詞集『ふしぎのくにのマザー・グースHey, Diddle Diddle』(1992)(以下、サンリオ版と略)および偕成社発行の『ル・メールのマザー・グース・メロディー』(1993)(以下、偕成社版と略)である。

(1) 『マザー・グースうたのほん』

この本には、71篇収録されている。内、楽譜に合わせた微細な変更を除き、草思社の5冊にも講談社文庫の4冊にも出ていないのは、次の3篇である。「おおマッフィンうり」(p.93)、「おどろろよ ルーバイラー」(p.110)、「おんなのこに あったかい」(p.108)。この本には原詩が記載されていない。元々、草思社訳を元に作られた「キングレコードのLP『マザー・グースのうた』を吹き込む際の楽譜資料を改めてまとめたもの」と巻末にある。LPは手元がないが、そのCD化されたものの歌詞ブックにも、原詩の記載がない。それぞれ第1連の訳のみ引用する。

「おおマッフィンうり マッフィンうり / みかけたかい あったかい / おおマッフィンうり
すんでるところは / ドルリー・レーン」

「おどろうよ ルーバイルー おどろうよ ルーバイライト / おどろうよ ルーバイルー ど
ようびのばん / みぎてをいれて みぎてをだして / それからふって ぐるっとまわる」

「おんなのこに あったかい あったかい どうだい / うろうろしてるこに あったかい / こ
っちへいこうか あっちへいこうか / うろうろしてるこにあったかい」

(2) 『マザーグースの料理絵本』

この本の発行時期は、草思社版と講談社文庫版の間にあたる。44篇収録中、20篇は草思社より
転載と巻末の原詩ページに注記してあるが、厳密には、「ジョージイ・ポージイ」が原詩の違い
で「ローリー・ポーリー」(p.70)になっている。残りの24篇中、23篇は講談社文庫に何らかの形
で出ている。草思社にも講談社文庫にも出ていないのが1篇ある。

『料理絵本』には、料理に関係のある唄の一部分だけの引用も多いが、講談社文庫に出ている
23篇の内、引用箇所だけを比べて全く同じものが8篇、アラビア数字と漢数字など微細な違いの
ものが8篇、1～2行訳の異なるものが6篇、全く訳が異なるものが1篇ある。ここでは、草思
社にも講談社文庫にも出ていないもの(p.[26])と、講談社と全く訳が異なるもの(p.[28])を紹介する。
(なお、[]内のページ数は、本に印刷されていないため、筆者の補記である。)

「かあさんのオートミールを / ふるおうよ / かあさんのこなをひこうよ / くりのからにいれ
てから / ねかせておこう 1じかん / いそいでひとりとんでくる / いそいでふたりとんでくる /
さあむすめたち / このきのしたへよっといで」(p.[26])

「ダフィー・ダウン・ディリーさん / ひっこしてきた このまちに / すいせんいろの ペティ
コート / はっぱいろの ドレスきて」(p.[28])

前者の原詩は、“Sieve my lady's oatmeal, / Grind my lady's flour. / Put it in a chestnut, / Let's
stand an hour. / One may rush, two may rush, / Come my girls, walk under my bush.”で、オー
ピーの*The Oxford Nursery Rhyme Book* のp.132に出ているものとはほぼ同じ唄である。後者は、講
談社文庫では「すいせんむすめが まちに来た / きいろいスカート みどりのガウン」(第3巻
p.70)となっている。

(3) 『ふしぎのくにのマザーグースHey, Diddle Diddle』

5篇の新訳が掲載されている。“This old man, He play one” (「このおとしよりたいこをたた
く」) (p.[4])、 “Will you walk into my parlor?” (「わたしのおへやにおいでなさいな」) (p.[18])、
“Here we go Looby Loo” (「ルービールーでおどろうよ」) (p.[22])、 “A little cock-sparrow” (「ち
っちゃなおすすずめ」) (p.[46])、 “Good night, / Sleep tight” (「おやすみなさい / ぐっすりおね
むり」) (p.[50])である。

“Here we go Looby Loo”は、実際の所は『うたのほん』(p.110)「おどろうよ ルーバイルー」
と同じ唄の訳と思われる。残念ながら『うたのほん』に原詩の記載がないので、同定できない。

参考として、『うたのほん』とはほぼ同じだが、キングレコードのCD歌詞ブックと、サンリオ
版から第1連だけここに引用する。

「おどろうよ ルーバイルー / おどろうよ ルーバイライト / おどろうよ ルーバイルー /

どうよびのぼん / みぎてをいれて みぎてをだして / それからふって ぐるっとまわる」(キングレコード歌詞ブックp.11)。

「ルービールーでおどろうよ / のろまじゃだめだよルービーライト / ルービールーでおどるんだ / みんなでどうよびのぼんに / みぎてをなかに / みぎてをそとに / みぎてをまわす / まわしてふって / そうしてぐるっとむきをかえる」(サンリオ版p.[22])。

「Good night, / Sleep tight」は、『スカーリー』p.92で「おやすみ / ぐっすり ねむるんだ / あさには ぼっちり めをさまし / げんきで ぼっちり がんばろう」と訳されているが、サンリオ版では、「おやすみなさい / ぐっすりおねむり / あさのひかりでげんきにおきて / しっかりいきるの / ちからのかぎり」と様変わりしている。もちろん原詩は同一である。

このサンリオ版には、25篇収録されており、葉祥明のイラストが付いているが、内6篇が同じイラストで『詩とメルヘン』1992年12月号(サンリオ) pp.[72]~[77]に掲載されている。新訳の「Good night, / Sleep tight」もp.[77]に出ている。そしてp.[79]には、「ここで紹介いたしました葉祥明さんのイラストによる詩画集付CD『ふしぎのくにのマザーグース』(全二巻)は、サンリオより9月21日に発売されています。」とある。CDの発売が先で、雑誌の方はその宣伝のようだ。ちなみに、この『詩とメルヘン』には11篇掲載されており、もう一枚のCD『ふしぎのくにのマザーグース Jack and Jill』(25篇収録)の方に残り5篇が収録されている。

(4) 『ル・メールのマザーグース・メロディー』

講談社文庫版に出していない5篇の新訳が掲載されているが、1篇はサンリオ版にある“A little cock-sparrow”(p.39の訳)である。あと4篇の新訳は、“Dance a baby diddy”(「おむつのおどりをおどろうよ」)(p.5の訳)、“Lazy sheep, pray tell me why?”(「ぐずぐずひつじ おしえておくれ」)(p.25の訳)、“Three mice went into a hole to spin”(「3びきのねずみ いとをつむぎにあなにこもった」)(p.35の訳)、“Sleep, baby, sleep”(「おねむり あかちゃん ねむるのよ!」)(p.71の訳)である。(訳詩ページには、ページ番号がない。)

この偕成社版には、34篇収録されており、ウィルビー・ル・メールの二冊の本 *Our Old Nursery Rhymes*, 1911 (30篇収録) および *Little Songs of Long Ago*, 1912 (30篇収録) からイラストが採られている。各唄の第1連のみ引用する。

「おむつのおどりをおどろうよ / ママはどうするなにをする? / おひざにおいで / おっばいあげよ / おむつのおどりをおどろうよ」

「ぐずぐずひつじ おしえておくれ / きれいなのはらにねそべって / あさからばんまで / くさやひなぎくたべてるの どうして? / だれでもなにかはするものなのに / おまえはなんのやくにたつ?」

「3びきのねずみ いとをつむぎにあなにこもった / ねこがとおりかかってなかをのぞいた / “なにしてるんだ おまえたち?” / “おとこものコートをおっております” / “いとをまくのをてつだわせておくれ” / “とんでもない おねこさま / わたしらのあたま かみきるんでしょ”」

「ちっちゃなおすすずめ / みどりのえだにとまってさえずる / ひいちくばあちく げんきよく / そこへきたのはいたずらこぞう / ちっちゃなゆみやですずめをねらう」

「おねむり あかちゃん ねむるのよ！ / おうちはたにまのおくふかく / のはらにあそぶこひ
つじは / ふわふわしろくゆきのよう / おねむり あかちゃん ねむるのよ！」

8 おわりに

今回の原稿は、2004年の大会での発表を元にしていて、時間の関係で省略した新訳についても書くことができた。厳密に言えば、『マザー・グースうたのほん』と『マザーグースの料理絵本』は時期的に新訳ではないが、意外に見過ごされていると思う。皆様の知らない谷川訳を報告できたのではないかと考えている。谷川俊太郎の訳詩を研究する方のお役にたてば幸いである。この他にも、谷川俊太郎の訳詩をご存知の方があれば、ぜひご教示願いたい。

*1 「ぼくのマザー・グースの翻訳で公表されたものはほとんど平野敬一さんに目を通していただいています。」(谷川俊太郎「無駄ばなし・マザー・グースと私」『英語展望』第52号、1976、p.16より) および、「僕は自信がないので、平野敬一さんという東大の先生が、カナダ生まれの先生なんですね、子ども時代にマザーグースを体で知っている先生がいらして、その人は当時、唯一のマザーグースの専門家だったのね。平野敬一先生に見てもらって、誤訳なんか直してもらって、それでずうっとやってきたんですけれどね。」(「座談会 マザーグースの世界」<特集:マザーグース> *PeeBoo*, 15, 1994, p.24より)

谷川俊太郎訳詩テキスト掲載頁列照表

備考

講 No	ODNR No.	草出典	『スカリー』	『ユレイカ』	草思社版	講談社文庫版	原詩冒頭	章と詩
4-14	465 ODNR		p.68		1-p.17	2-p.86	なし	A diller, a dollar
8-9	230 Treasury				4-p.37	3-p.133	なし	A house full, a hole full
7-23	掲載なし Treasury				4-p.32	3-p.106	あり	Anna Maria she sat on the fire
9-37	ONRB-p.207 ONRB				4-p.50	4-p.104	なし	An old woman went to market
8-13	441 ODNR				4-p.32	3-p.137	なし	A riddle, a riddle, /As I suppose
9-13	240 ODNR				3-p.56	4-p.49	なし	As I was going along, long, long
8-16	462 ODNR			p.78 異同なし	2-p.42	3-p.140	なし	As I was going to St. Ives
7-21	64 ODNR				5-p.46	3-p.104	なし	As I went to Bonner / I met a pig
8-3	10 ODNR				4-p.33	3-p.127	なし	As round as an apple
5-25	ONRB-p.118 ONRB				5-p.32	3-p.46	なし	A swarm of bees in May
2-46	55 ODNR		p.36		5-p.14	1-p.111	なし	Baa, baa, black sheep
7-9	15 ODNR				5-p.40	3-p.91	なし	Baby and I / Were baked in a pie
7-20	31 ODNR		p.50		3-p.34	3-p.103	なし	Barber, barber, shave a pig
2-61	330の變形 TYR				4-p.24	1-p.131	なし	Betty my sister and I fell out
8-7	53 Treasury				4-p.37	2-p.21	なし	Black I am and much admired
3-4	532 ODNR		p.81 異同なし		2-p.54	4-p.55	なし	Blow, wind, blow! and go, mill, go!
9-17	60 ODNR		p.13 異同なし		2-p.30	2-p.57	なし	Bobby Shafto's gone to sea
2-5	ONRB-p.23 MGT				1-p.13	1-p.61	なし	Bow-wow, says the dog
3-1	75 ODNR				2-p.33	2-p.33	あり	Boys and girls come out to play
3-13	ONRB-p.68				1-p.9	1-p.40	なし	Bull's eyes and targets
1-22	25 ODNR				5-p.21	2-p.57	なし	Bye, baby bunting
3-33	85 ODNR				5-p.21	2-p.57	なし	Come, butter, come
1-13	275 ODNR		p.26		5-p.21	1-p.31	なし	Diddle, diddle, dumpling, my son John
4-12	528 ODNR				5-p.38	4-p.48	なし	Did you see my wife, did you see
4-39	162 ODNR				4-p.42	2-p.117	なし	Doctor Faustus was a good man
4-40	152 ODNR		p.41		2-p.44	2-p.118	なし	Elsie Marley is grown so fine
4-8	ONRB-p.83 RS		p.58 異同なし		2-p.26	2-p.80	なし	Fe, fi, fo, fum
5-14	370 ODNR				3-p.48	3-p.35	なし	For want of a nail the shoe was lost
4-28	496 ODNR				4-p.30	2-p.106	なし	Four and twenty tailors
2-32	181 ODNR		p.30 異同なし		2-p.39	1-p.96	なし	Geogie Porgie, pudding and pie
4-45	掲載なし TYR			p.80 異同なし	5-p.33	2-p.123	あり	God made the bees
2-11	190 ODNR				掲載なし	掲載なし	なし	Good night, / Sleep tight
1-14	35 ODNR				5-p.26	1-p.67	なし	Goosey, goosey gander
2-4	4 ODNR				5-p.58	1-p.32	なし	Go to bed first
2-12	140 ODNR				4-p.48	1-p.60	なし	Great A, little a
4-36	207 ODNR		p.72		4-p.26	1-p.68	なし	Hark, hark
2-56	284 ODNR				5-p.18	2-p.114	なし	Hector Protector
4-43	掲載なし TYR				5-p.16	1-p.126	なし	Here am I, / Little Jumping Joan
1-24	掲載なし MGT				5-p.49	2-p.121	なし	Here lies old Fred
5-10	ONRB-p.114 Treasury				1-p.54	1-p.42	なし	Here we go round the mulberry bush
2-3	212 ODNR		p.32		3-p.31	3-p.31	あり	Hey diddle diddle
2-6	217 ODNR		p.25		1-p.1	1-p.59	なし	Hey diddle diddle
2-15	221 ODNR				2-p.21	1-p.99	なし	Hickety, pickety, my fine hen
6-3	26 ODNR				5-p.50	1-p.62	なし	Hinck, minck, the old witch winks
2-9	233 ODNR				3-p.22	3-p.57	なし	How many miles to Babylon?
1-17	22 ODNR				1-p.44	1-p.65	なし	Humpty Dumpty sat on a wall
					2-p.10	1-p.35	なし	Hush-a-bye, baby, on the tree top

1-8	400 ODNR			2-p.45	あつあつのまめのおかゆ	1-p.26	なし	Pease porridge hot	字遣いのみ
4-1	405 ODNR	p.47 異同なし		2-p.28	ピーターピーターかぼちゃが	2-p.73	なし	Peter, Peter, pumpkin eater	
8-20	406 ODNR	p.51 異同なし		5-p.42	ピーター・ハバード	3-p.144	なし	Peter Piper picked a peck of	
7-24	407 ODNR			5-p.17	ピーター・ホワイト	3-p.107	なし	Peter White will go ne'er go right	
3-7	420 ODNR	p.39 異同なし		1-p.28	ポリーヤカンの蓋のつけてよ	2-p.24	なし	Polly put the kettle on	
4-33	423 ODNR			3-p.5	パンチとジュディ	2-p.111	なし	Punch and Judy	
8-4	425 Treasury			4-p.35	むらさききいろあかみどり	3-p.128	なし	Purple, yellow, red, and green	
2-24	428 ODNR	p.71 異同なし		2-p.5	ねこねこねこどこにいた?	1-p.85	なし	Pussy cat, pussy cat, where	
6-11	122の注 RS	p.87 異同なし		5-p.37	かわいこちゃん	3-p.66	なし	Rain, rain, go away, ...another day	
3-29	435 ODNR			2-p.56	あめあめ やめやめ	2-p.53	なし	Rats in the garden	
5-24	ONRB-p.117 Treasury			5-p.22	ねずみがにわに	1-p.41	なし	Red sky at night	
8-2	442 Treasury			3-p.36	なぞなぞなかに	3-p.126	なし	Riddle me, riddle me ree	字遣いのみ
2-38	29 MGT			1-p.10	ハンバリーのまちかどへ	1-p.102	なし	Ride a cock-horse... / To see	
1-12	443 ODNR	p.6		2-p.1	ばらのばなわを つくろうよ	1-p.30	なし	Ring-a-ring o' roses	
4-10	446 ODNR			5-p.48	ロビンにリチャード	2-p.82	なし	Robin and Richard	
4-9	454 ODNR			3-p.50	ホビンのロビン	2-p.81	なし	Robin the Bobbin	
3-5	ONRB-p.60 MGT			1-p.5	ばらはあかい	2-p.22	なし	Roses are red	字遣いのみ
2-7	460 RS	p.43		1-p.38	どんぶらっこ	1-p.63	なし	Rub-a-dub-dub	
4-12	146 ODNR			4-p.4	セント・ダNSTANは	2-p.84	なし	St. Dunstan, at the story goes	
1-11	ONRB-p.15 Treasury			4-p.41	サリーおひさまのまわりを	1-p.29	なし	Sally go round the sun	
5-16	ONRB-p.116 ODNR			5-p.39	いととはさみ	3-p.37	あり	Scissors and strings	
2-42	476 RS	p.22 異同なし		2-p.46	のんきなサイモン	1-p.106	なし	Simple Simon	
3-2	486 ODNR	p.49	p.86	4-p.10	六ペンスのうたをうたおう	2-p.18	なし	Sing a song of sixpence	
3-32	ONRB-p.75 ONRB			5-p.1	ゆきゆき つもれ	2-p.56	あり	Snw, snow, faster	
2-18	483 ODNR			1-p.20	ソモン・クランディ	1-p.79	なし	Solomon Grundy	字遣いのみ
4-21	495 ODNR	p.90 異同なし		2-p.20	おほしさま おほしさま	1-p.34	なし	Star light, star bright	
9-24	376 ODNR	p.74	p.76	1-p.34	ウェールズまれのダフィー	1-p.98	なし	Taffy was a Welshman	
9-20	89 ODNR	p.63 異同なし		2-p.50	十にんのニグロのこども	2-p.70	なし	Ten little nigger boys went	
3-6	121 ODNR			2-p.48	ねこはねむる	4-p.61	あり	The cat sat asleep by the side	
7-19	164 ODNR			5-p.34	かつこうはようきなことり	2-p.23	なし	The cuckoo is a merry bird	
2-54	533 ODNR			4-p.45	フェルトンのちびのぼうさん	3-p.102	なし	The little priest of Felton	
2-20	325 ODNR			1-p.52	きたかぜひゆうひゆう	1-p.124	なし	The north wind doth blow	
4-7	352 ODNR	p.55		1-p.24	ひねくけおしこが	1-p.81	なし	There was a crooked man	
9-38	293 ODNR			5-p.12	うかれこなやが	2-p.79	なし	There was a jolly miller once	
2-29	186 ODNR			3-p.54	ほねとかわのおんな	4-p.114	あり	There was a lady all skin and bone	
4-30	314 ODNR			4-p.25	ちいさなむすめが	1-p.92	なし	There was a little girl	
9-39	327 ODNR			3-p.18	くるったおとこ	2-p.108	なし	There was a little maid	
7-33	321 ODNR			3-p.10	ひとりのおとこがしんだのさ	4-p.116	なし	There was a mad man and he had	
7-18	120 ODNR	p.94 異同なし		3-p.12	あたまのおかしおとこ	3-p.117	なし	There was a man, a very untidy man	
7-7	538 ODNR			5-p.47	ハラスのうえに からすが	3-p.100	なし	There was a man, he went mad	
4-24	403 ODNR			1-p.25	なんにもたないばあさん	3-p.101	なし	There was an old crow	
7-14	542 ODNR			2-p.40	ばあさんがいたよ そのなほ	3-p.88	なし	There was an old woman / And nothing	
2-47	546 ODNR	p.20 異同なし		4-p.58	ばあさんがひとり	3-p.97	なし	There was an old woman, her name	
4-32	507の図版 ODNR			1-p.21	くつのおうちのおばあさん	1-p.112	なし	There was an old woman / Lived...	
7-40	RS	p.29		3-p.37	トバコにひとりのひょうにんが	2-p.120	なし	There was a sick man who lived in a shoe	
4-30	525 ODNR			3-p.32	キルケニーのねこひき	3-p.114	なし	There were once two cats of Kilkenny	
9-1	51 ODNR			3-p.42	さんごんのウェールズの	4-p.13	なし	There were three jowail Welshman	
3-21				1-p.12	にわのことりが	2-p.45	あり	There were two birds sat on a stone	字遣いのみ

8-8	ONRB-p.151	Treasury	4-p.34	あかいおかのうえ	3-p.132	あり	Thirty white horses
2-51	254	ODNR	1-p.46	これはジャックのたてたいえ	1-p.116	なし	This is the house that Jack built
1-10	ONRB-p.14	ONRB	4-p.18	こぶじんがたがうまにのりや	1-p.28	なし	This is the way the ladies ride
1-2	412	ODNR	2-p.12	このこぶたさん かいものに	1-p.20	なし	This little pig went to market
3-9	344	ODNR	5-p.44	さんびきのめくらのねずみ	2-p.26	あり	Three blind mice, see how they run
7-10	98	ODNR	4-p.56	まにんのごとものが	3-p.92	あり	Three children sliding on the ice
4-22	ONRB-p.92	Treasury	3-p.33	さんにんのちびのおほけおぼし	2-p.100	あり	Three little ghosts
3-1	ONRB-p.65	RS	1-p.36	まひきのごねこ	2-p.30	なし	Three little kittens
4-3	192	ODNR	5-p.43	ゴータムむらのおりごうさんに	2-p.75	なし	Three wise men of Gotham
2-33	437	ODNR	5-p.28	まひきのわかいねずみ	1-p.97	なし	Three young rats with black felt hats
5-2	502	ODNR	2-p.13	いかけや / したてや	3-p.22	なし	Tinker, / Tailor
1-18	339の注	ODNR	2-p.40	いちばへいちはへかるいし	1-p.36	なし	To market, to market to buy a fat pig
9-4	508	ODNR	5-p.54	トムはふえふきのむすこ	4-p.20	なし	Tom, he was a piper's son
4-44	509	ODNR	2-p.37	にちようび トムはめでたく	2-p.122	なし	Tom married a wife on Sunday
2-50	510	ODNR	3-p.39	トム トム ふえふきのむすこ	1-p.115	なし	Tom, Tom, the piper's son
2-37	521	ODNR	1-p.29	トワイードルダムと	1-p.101	なし	Tweedledum and Tweedledee
2-25	489	ODNR	2-p.18	きちきちらいざなおほしさま	1-p.86	なし	Twinkle, twinkle, little star
8-12	302	ODNR	2-p.24	いっぽんあしをむすにのせ	3-p.136	なし	Two legs sat upon three legs
2-60	掲載なし	TYR	5-p.30	とおくのとおくの きたのくに	1-p.130	なし	Up in the North, a long way off
2-26	530	ODNR	3-p.24	ちびのウイー・ウインキー	1-p.88	なし	Wee Willie Winkie runs through the town
3-15	78	ODNR	1-p.6	おとこのこつて なんぞ	2-p.37	なし	What are little boys made of?
7-29	掲載なし	TYR	3-p.68	なんのゆめをみたんだろ?	3-p.113	なし	What did I dream?
7-31	掲載なし	TYR	5-p.36	もらってみなけりや	3-p.116	なし	When a man has married a wife
9-30	11	ODNR	4-p.8	このくにおさめたアーサーおう	4-p.90	なし	When good King Arthur
4-18	RS	RS	3-p.88	ひとりもんはこまりもん	2-p.95	なし	When I was a bachelor
4-5	70	ODNR	4-p.47	ちつちやながきのこち	2-p.77	なし	When I was a little boy / I had but little wit
5-8	268	ODNR	2-p.17	いいこだつたらジャッキーに	3-p.29	なし	When Jacky's a good boy
9-25	43	ODNR	2-p.35	わたしたちいつけつごんするの	4-p.73	なし	When shall we be married
9-10	317	MG	2-p.32	かわいこちゃん どこへいく?	4-p.44	なし	Where are you going my pretty maid?
9-5	110	ODNR	3-p.26	だれがこまどり ころしたの?	4-p.23	なし	Who killed Cock Robin?
1-27	掲載なし	Treasury	5-p.24	パイづつたのたれ?	1-p.46	なし	Who made the pie?
3-3	549	ODNR	5-p.18	ヤンキー・ドワードル やつて	2-p.20	なし	Yankee Doodle came to town, / Riding
3-23	297	ODNR	2-p.47	おもちゃのひつじは	2-p.47	なし	Young lambs to sell!

配列は、原詩歌い出しのABC順

講 No.は、講談社文庫版に付いている分類番号で、ハイフンの前の数字は実際にローマ数字。オービーの *The Oxford Nursery Rhyme Book* を手本にした分類。

ODNR No.は、オービーの *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes* の通し番号。これに出していない頃は、*The Oxford Nursery Rhyme Book* の掲載頁を示し、

どちらにも掲載されていないものは「掲載なし」とした。

草出典は、草思社版の原詩出典資料。ODNRは *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*、MGTは *Mother Goose Tunes* (TBSブリタニカ)、Treasuryは *The Mother Goose* (Puffin Books)、

TYRは *Three Young Rats and Other Rhymes*、RSは *Richard Scarry's Mother Goose Ever*、ONRBは *The Oxford Nursery Rhyme Book* の略。

『スカリー』と『ユリイカ』の欄の「異同なし」は、草思社版との比較。

講談社文庫版の右側の「草と異同」欄は、草思社版と講談社文庫版との異同の有無。